

授業概要

科目名	キャリアプランニング5	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	遠藤 龍		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会人としてのマインドを自立させ、専門職としての身構え、気構え、心構えを養成します。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
慢性期医療機関の医療ソーシャルワーカーの実務経験がある教員が、人生について共に考え専門職人のまえに一人の社会人としてどう生きていくかを考えたい。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各授業で資料を配布します。					普段の積み重ねが仕事で出てきます。普段から意識して行動しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/7	【授業単元】 オリエンテーション 模擬試験 【到達目標】 授業の進行内容を把握すること。 学生自身が現状把握できること。				9 6/9	【授業単元】 7つの習慣⑦ 【到達目標】 刃を研ぐ			
2 4/14	【授業単元】 7つの習慣⑧ 【到達目標】 「主体性を発揮する」について理解し行動することが出来る				10 6/16	【授業単元】 就職の進捗確認と面接練習 【到達目標】 就職活動の進捗確認を行い、自身の現在地を明確化する			
3 4/21	【授業単元】 7つの習慣⑨ 【到達目標】 「終わりを描くことから始める」について理解し行動することが出来る				11 6/23	【授業単元】 心理4年卒研報告会の打ち合わせ② 【到達目標】 報告会開催に向けて準備を進めることが出来る			
4 4/28	【授業単元】 7つの習慣⑩ 【到達目標】 「最優先事項を優先する」について理解し行動することが出来る				12 6/30	【授業単元】 心理4年卒研報告会の打ち合わせ③ 【到達目標】 報告会開催に向けて準備を進めることが出来る			
5 5/12	【授業単元】 心理4年卒研報告会の打ち合わせ① 【到達目標】 卒研報告会の目的を理解する				13 7/7	【授業単元】 模擬試験の実施 【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
6 5/19	【授業単元】 7つの習慣⑪ 【到達目標】 winwinを考える				14 7/14	【授業単元】 心理4年卒研報告会の打ち合わせ④ 【到達目標】 報告会開催に向けて準備を進めることが出来る			
7 5/26	【授業単元】 7つの習慣⑫ まず理解に徹し、そして理解される				15 7/21	【授業単元】 期末テスト+夏休みの宿題、心理4年卒研報告会のリハーサル⑤ 【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
8 6/2	【授業単元】 7つの習慣⑬ 【到達目標】 シナジーを作り出す				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本的な視点、考え方を理解して、いつでも自身の想いを言語化できるようにしよう									

授業概要

科目名	キャリアプランニング5	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	遠藤 龍		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会人、職業人としてソーシャルワークやITに関する必要な知識や技術を持ち、卒業後に社会に出て活躍できる力を身につける。 国家試験合格のための学習や目的設定を行いモチベーションを保つ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
慢性期医療機関の医療ソーシャルワーカーの実務経験がある教員が、社会人として必要な知識や技術を、ソーシャルワークやAI技術を通じて講義します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回、資料配布					授業で取り組んだ、内容を基本として反復して、自らの学習に応用してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 進路について 国家試験に向けた準備を説明 目標・目的設定				9	【授業単元】 国家試験対策			
	【到達目標】 自身の進路について理解する 社会福祉士国家試験について理解する					【到達目標】 問題を解き現状の把握と自己学習につなげる			
2	【授業単元】 社会福祉士についての理解を深める				10	【授業単元】 国家試験対策			
	【到達目標】 社会福祉士が活躍する場所や働き方について知る					【到達目標】 問題を解き現状の把握と自己学習につなげる			
3	【授業単元】 社会人マナーについて				11	【授業単元】 国家試験対策			
	【到達目標】 社会人としての基本や心構えを身につける					【到達目標】 問題を解き現状の把握と自己学習につなげる			
4	【授業単元】 AIを利用した勉強方法の検討				12	【授業単元】 国家試験対策			
	【到達目標】 国家試験の向けた効率の良い学習方法を習得する					【到達目標】 問題を解き現状の把握と自己学習につなげる			
5	【授業単元】 AIを利用した勉強ノートの作成				13	【授業単元】 国家試験対策			
	【到達目標】 受験に向けて、自身に合うノートを作成して自己学習に生かす					【到達目標】 問題を解き現状の把握と自己学習につなげる			
6	【授業単元】 事例検討				14	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 現場での実践力を身につける					【到達目標】 自身の現状を把握して、苦手科目や弱点克服につなげる			
7	【授業単元】 事例検討				15	【授業単元】 定期試験のフィードバック			
	【到達目標】 現場での実践力を身につける					【到達目標】 フィードバックを受けたうえで、国家試験に向けた学習方法の再確認と目標を設定する			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 自身の現状を理解する				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマ、人生の糧とすべく、現在、未来と何が大きかを考えながら実践してください。									

授業概要

科目名	プロジェクト学習2	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
学生が担当するプロジェクトテーマを設定し、自ら調査や実践を通じて問題解決能力や創造性を育む。複数の教科をまたいで実践的な課題に取り組むことで、総合的な能力を身に付ける。また、校外の事業者と協力するコミュニケーション能力も重視する。利用者に役立つ成果を生み出す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①チームワーク能力の向上(校外の事業者・関係機関・メンバーと協力して目標達成) ②問題解決能力の習得(実際の課題に取り組みながら、実践的な問題解決能力の獲得) ③クリエイティブ思考の育成(既存の知識やスキルを活用しながら、新たなアイデアやアプローチを生み出すクリエイティブな思考法の養成) ④プロジェクト管理能力の向上(スケジュール管理、リソースの最適利用、成果の評価など、プロジェクト全体の管理能力の向上) 情報サービス業および福祉サービス業における業務経験を有する教員が各人のプロジェクトを支援します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学生は教員が列挙する提携候補リスト(別紙、校外の事業者リスト)から選んで取り組む。校外の事業者より提供される資料を活用する。これまでの活動(プログラミング・AIツール、スマホ教室運営、学内文化祭運営、メタバース活用、都知事杯ハッカソンほか受賞)の作品や資料を活かす。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・ 2・ 3・ 4	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				33・ 34・ 35・ 36	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
5・ 6・ 7・ 8	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				37・ 38・ 39・ 40	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
9・ 10・ 11・ 12	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				41・ 42・ 43・ 44	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
13・ 14・ 15・ 16	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				45・ 46・ 47・ 48	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
17・ 18・ 19・ 20	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				49・ 50・ 51・ 52	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
21・ 22・ 23・ 24	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				53・ 54・ 55・ 56	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
25・ 26・ 27・ 28	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				57・ 58・ 59・ 60	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。改善提案を実行した結果を報告し、評価する。(前期末定期報告)			
29・ 30・ 31・ 32	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。(前期中間報告)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実際の医療福祉分野や情報通信分野の課題を、自らの力で解決していくことを期待します。解決していく過程で、必要な技能を会得していきます。									

授 業 概 要

科目名	プロジェクト学習2	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
学生が担当するプロジェクトテーマを設定し、自ら調査や実践を通じて問題解決能力や創造性を育む。複数の教科をまたいで実践的な課題に取り組むことで、総合的な能力を身に付ける。また、校外の事業者と協力するコミュニケーション能力も重視する。利用者に役立つ成果を生み出す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①チームワーク能力の向上(校外の事業者・関係機関・メンバーと協力して目標達成) ②問題解決能力の習得(実際の課題に取り組みながら、実践的な問題解決能力の獲得) ③クリエイティブ思考の育成(既存の知識やスキルを活用しながら、新たなアイデアやアプローチを生み出すクリエイティブな思考法の養成) ④プロジェクト管理能力の向上(スケジュール管理、リソースの最適利用、成果の評価など、プロジェクト全体の管理能力の向上) 情報サービス業および福祉サービス業における業務経験を有する教員が各人のプロジェクトを支援します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学生は教員が列挙する提携候補リスト(別紙、校外の事業者リスト)から選んで取り組む。校外の事業者より提供される資料を活用する。これまでの活動(プログラミング・AIツール、スマホ教室運営、学内文化祭運営、メタバース活用、都知事杯ハッカソンほか受賞)の作品や資料を活かす。					校外の事業者の連携し、プロジェクトテーマを設定し活動する。校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Data チャレンジ、アーバンデータチャレンジ、都知事杯オープンデータ・ハッカソン)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2・3・4	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				33・34・35・36	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
5・6・7・8	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				37・38・39・40	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
9・10・11・12	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				41・42・43・44	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
13・14・15・16	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				45・46・47・48	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
17・18・19・20	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				49・50・51・52	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
21・22・23・24	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				53・54・55・56	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行 【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
25・26・27・28	【授業単元】 校外の事業者からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施 【到達目標】 校外の事業者からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。				57・58・59・60	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。改善提案を実行した結果を報告し、評価する。(前期定期報告)			
29・30・31・32	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、校外の事業者や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。(前期中間報告)				【成績評価の方法と基準】				
【履修に当たっての心構え・留意点】 実際の医療福祉分野や情報通信分野の課題を、自らの力で解決していくことを期待します。解決していく過程で、必要な技能を会得していきます。					講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別授業 (国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	吉成孝夫		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・国家試験過去問の演習を通じて社会福祉の原理と政策及び社会保障に関する基礎知識を整理し身に着ける。 ・社会福祉士国家試験に合格できる水準の知識を身に着ける学習方法を体得する。 ・自己学習を基本に対話・集団討議等により自己覚知を深め協力・共同の力を併せて涵養する									
実務経験としては高齢医者施設の介護、相談業務。ボランティアとしてホームレス支援に携わる。学問的バックボーン、立教大学経済学研究科、社会事業大学									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精選過去問解説＆解答分析集					・必ず復習をする。わかるまで突き詰める。曖昧さを残さない。 ・紙に書く＝自己理解の対象化に				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 「社会福祉の原理と政策」オリエンテーション			9	【授業単元】 貧困に対する支援 過去問演習①				
	【到達目標】 ・過去の国家試験問題を解いてみることで、どのような水準の知識が要求され、どのような問題が問われているか、合格するにはどのような学習が必要かを自覚できる。 また、合格するための各人の目標を立てる。				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
2	【授業単元】 社会福祉の原理と政策 過去問演習②			10	【授業単元】 貧困に対する支援過去問演習②				
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
3	【授業単元】 社会福祉の原理と政策 問題演習③			11	【授業単元】 貧困に対する支援 過去問演習③				
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
4	【授業単元】 社会福祉の原理と政策 過去問演習④			12	【授業単元】 貧困に対する支援 過去問演習④				
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
5	【授業単元】 社会保障 過去問演習①			13	【授業単元】 地域福祉と包括的支援体制 過去問演習①				
	【到達目標】 ・社会保障の分野の重点事項が理解でき、学習方法・手順が理解できる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
6	【授業単元】 社会保障 過去問演習②			14	地域福祉と包括的支援体制 過去問演習②				
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
7	【授業単元】 社会保障 過去問演習③			15	地域福祉と包括的支援体制 過去問演習③				
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる				
8	【授業単元】 社会保障 過去問演習④			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 問題演習を通じて本科目の重要事項を理解し定着させることができる			成績評価なし					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・疑問を持つ、自ら調べる、調べてもわからない時は聞く、一にも二にも努力									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別授業(国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤 誠二			
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
国家試験対策としての授業とし、過去問実施と各授業の振り返り、復習から国家試験合格レベルの知識を身に着ける。また、傾向と対策を確認しつつ、お互いに補完し、助け合いを行いながら合格ラインを目指す。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
国家試験対策においては、過去の国家試験を中心に実施していく。自身の弱点を見出すと同時に、受験対策の心構え、勉強法などを講義する。また、国家試験の傾向と対策を確認しながら、授業を構成していく。										
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】						
各教員から適宜資料、及びレジュメ等を配布する。				自身の弱点を見だし、復習を欠かせない。不明な点は、積極的に質問し理解を深める。						
コマ	授業計画			コマ	授業計画					
1	【授業単元】 受験対策				9	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 自己紹介 社会福祉士共通科目過去問実施									
2	【授業単元】 受験対策				10	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施 解答・解説から理解を深める									
3	【授業単元】 受験対策				11	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
4	【授業単元】 受験対策				12	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
5	【授業単元】 受験対策				13	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
6	【授業単元】 受験対策				14	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
7	【授業単元】 受験対策				15	【授業単元】 傾向と対策				
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
8	【授業単元】 受験対策				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 社会福祉士共通科目過去問実施									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
国家試験対策においては、過去問の実施はもちろん、仲間との連携や協働作業も必要です。苦手科目を疎かにせず、お互いに補完しながらすすめていってください。										

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別授業(国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 高齢者福祉分野を国家試験の頻出ポイントを踏まえ、法改正や最新のデータを含め理解する 2. 児童家庭福祉分野を国家試験の頻出ポイントを踏まえ、法改正や最新のデータを含め理解する 3. ソーシャルワークの基盤と専門職を国家試験の頻出ポイントを踏まえ、現代の時勢に併せて理解する 4. ソーシャルワークの理論と方法を国家試験の頻出ポイントを踏まえ、現代の時勢に併せて理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等にて相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、現在の高齢福祉業界の実情を加味し、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形で授業進行を心がける。また、社会福祉士としての考え方を介護支援専門員との視点を交えて伝えていけるよう授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法・ソーシャルワークの基盤と専門職・高齢者福祉・児童家庭福祉／中央法規出版 タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料					過去問題や模擬問題を自宅で行い、理解が困難な部分や分野を抽出し質問ができるよう準備する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 高齢者福祉				17・18	【授業単元】 児童家庭福祉			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
3・4	【授業単元】 高齢者福祉				19・20	【授業単元】 児童家庭福祉			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
5・6	【授業単元】 高齢者福祉				21・22	【授業単元】 児童家庭福祉			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
7・8	【授業単元】 高齢者福祉				23・24	【授業単元】 児童家庭福祉			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
9・10	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤と専門職				25・26	【授業単元】 ソーシャルワークの理論と方法			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
11・12	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤と専門職				27・28	【授業単元】 ソーシャルワークの理論と方法			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
13・14	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤と専門職				29・30	【授業単元】 ソーシャルワークの理論と方法			
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策					【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策			
15・16	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤と専門職				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・国試の傾向確認 ・模擬問題 ・弱点の洗い出し、対策								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉士国家試験合格を目標に各分野の復習を行うと共に、弱点を洗い出し、苦手分野の克服を行います。各自自身の得手不得手を再確認し、着実に点数を重ねられるようにしましょう。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別授業 (国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期 (前半)	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー	学年	4年	授業 形態	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉士の国家試験試験に向けて、「社会学と社会システム」「社会福祉の理論と政策」の範囲に関して、各項目の要点をまとめ重要用語を理解してそれを他の者に説明できるようにする。また、過去問や模擬問題を数多くこなすことによって、国家試験問題の6割以上の正解率をたたきだせるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験の受験指導を始めて、20年以上の経験を積んできた教員が、社会福祉士国家試験の問題受験に向けての授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定の受験用教材を用いる レジュメと問題を授業ごとに配布する					授業前日に、授業用プリントに取り掛かってみて下さい。また、授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉の歴史 17世紀～19世紀 【到達目標】 ・エリザベス救貧法 ・ギルバート法 ・スピーナムランド制度 ・産業革命 ・マルサス ・チャルマーズ ・新救貧法 ・バーネット夫妻 ・貧困調査				9	【授業単元】 市場の論議と倫理 【到達目標】 ・バレート効率 ・ロールズの正義論 ・功利主義 ・センのケイバリティ論 ・サンデルのコミュニタリアリズム ・ルグランの準市場			
2	【授業単元】 社会福祉の歴史 20世紀以降 【到達目標】 ・ナショナルミニマム ・国民保険法 ・ビスマルクの改革 ・ワイマール共和国 ・ケインズ理論 ・ニューディール政策 ・ベヴァリッジ報告 ・ジョンソンの貧困との闘い				10	【授業単元】 社会福祉の定義 【到達目標】 ・マースシャル ・ハイエク ・ギティンズ ・ローズ ・ペストフ ・ティマス ・ウィレンスキー ・アンデルセン			
3	【授業単元】 社会福祉の沿革 1970年代～ 【到達目標】 ・ハイエクとフリードマン ・サッチャーとレーガン ・ソ連の崩壊とグローバリズム ・ポジティブウェルフェアへ ・第三の道 ・ウェルフェアからワークフェアへ				11	【授業単元】 日本の社会福祉学者の定義と社会福祉法 【到達目標】 ・竹内愛二 ・大河内一男 ・孝橋正一 ・中村優一 ・一番ヶ瀬康子 ・岡村重夫 ・三浦文雄			
4	【授業単元】 わが国の福祉の源流 【到達目標】 ・石井十次 ・A.アダムス ・石井亮一 ・留岡幸助 ・小河滋二郎 ・沢沢栄一 ・済世顧問制度 ・方面委員 ・戦時厚生事業 ・救護法				12	【授業単元】 諸外国の社会保障制度Ⅰ 【到達目標】 ・アメリカの社会保障制度 ・イギリスの "			
5	【授業単元】 日本の福祉の発展 【到達目標】 ・生活保護法 ・憲法25条 ・国民皆年金皆保険 ・福祉6法 ・福祉元年 ・日本型福祉社会				13	【授業単元】 諸外国の社会保障制度Ⅱ 【到達目標】 ・ドイツの社会保障制度 ・フランスの " ・スウェーデンの "			
6	【授業単元】 福祉の民営化 【到達目標】 ・今後の社会福祉の在り方について ・社会福祉基礎構造改革 ・介護保険スタート ・小泉改革(新自由主義改革) ・少子化対策の開始 ・格差社会の到来・生活保護法 ・憲法25条 ・国民皆年金皆保険 ・福祉6法 ・福祉元年 ・日本型福祉社会				14	【授業単元】 福祉政策と関連政策Ⅰ 【到達目標】 ・災害と福祉 ・格差問題と福祉 ・外国人問題と福祉			
7	【授業単元】 今日的福祉改革 【到達目標】 ・民主党政権の改革 こども手当 社会保障税一体改革 ・安部内閣の改革 女性活躍推進法 ニッポン一億総活躍社会 ・こどもの貧困対策 ・働き方改革				15	【授業単元】 福祉政策と関連政策Ⅱ 【到達目標】 ・地方創生と福祉 ・医療保健政策と福祉 ・住宅政策と福祉			
8	【授業単元】 福祉政策の理念 【到達目標】 ・公私分担理論 ・福祉多元主義 ・責献原則と必要原則 ・用具と報酬 ・市場メカニズムの活用方法 NPM				16				
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別授業 (国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期 (後半)	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉士の国家試験試験に向けて、「社会学と社会システム」「社会福祉の理論と政策」の範囲に関して、各項目の要点をまとめ重要用語を理解してそれを他の者に説明できるようにする。また、過去問や模擬問題を数多くこなすことによって、国家試験問題の6割以上の正解率をたたきだせるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験の受験指導を始めて、20年以上の経験を積んできた教員が、社会福祉士国家試験の問題受験に向けての授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定の受験用教材を用いる レジュメと問題を授業ごとに配布する					授業前日に、授業用プリントに取り掛かってみて下さい。また、授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 年金制度 【到達目標】 ・年金制度の沿革 ・年金の種類 ・現在の年金制度				9	【授業単元】 日常生活と相互行為 社会的役割 【到達目標】 ・ウェーバーの行為論 ・ゴッマンの演劇的行為論とスティグマ ・ハーバーマスのコミュニケーション行為論 ・パーソンズの主意主義的行為論 ・役割取得 ・役割距離 ・鏡に映った自我			
2	【授業単元】 働き方の変化と雇用政策・雇用保険 【到達目標】 ・働き方改革 ・非正規雇用と求職者支援法 ・雇用保険法の改正				10	【授業単元】 コミュニティと地域社会の変貌 【到達目標】 ・都市社会学 バージェス ワース オグバーン ・日本の都市社会学 磯村栄一 鈴木栄太郎 ・限界集落			
3	【授業単元】 人口問題と福祉 【到達目標】 ・少子高齢化と福祉政策 ・少子化対策 児童手当 雇用保険の改正				11	【授業単元】 経済と社会システム 【到達目標】 ・アダム・スミス ・バレート効率 ・ピグーの厚生経済学 ・ケインズの経済計画 ・ハイエクの新自由主義 ・フリードマン ・ピケティ ・ギデンズ			
4	【授業単元】 家族の課題と福祉政策 【到達目標】 ・世帯構造の変化と福祉政策 ・家族力の低下と福祉政策				12	【授業単元】 貧困問題と社会政策 【到達目標】 ・生活保護制度 ・生活困窮者自立支援法			
5	【授業単元】 古典社会学 【到達目標】 ・コントの三段階の法則 ・スペンサーの社会有機体説 ・ジンメル形式社会学 ・デュルケムの社会分業論 ・ウェーバーの理解社会学、支配の三類型				13	【授業単元】 社会生活と集団 【到達目標】 ・第一次集団と第二次集団 ・ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ・コミュニティとアソシエーション ・フォーマルとインフォーマル ・準集団 ・内集団と外集団 ・社会関係資本			
6	【授業単元】 労働の在り方と人生設計 【到達目標】 ・年収減と非正規雇用の増大 ・現在進む働き方改革 ・外国人労働者の雇用問題				14	【授業単元】 社会変動と情報化社会 【到達目標】 ・リースマン ・ガルブレイス ・ガルブレイス ・リースマン ・ヴェブレン ・ボードリヤール ・アルビン・トフラー			
7	【授業単元】 組織と官僚 【到達目標】 ・ウェーバーの官僚制 ・マートンの官僚制批判 ・組織経営論 ・社会的ジレンマ				15	【授業単元】 社会問題と社会 【到達目標】 ・ラベリング論 ・文化学習理論 ・社会構築主義 ・社会解体論 ・第一次逸脱と第二次逸脱 ・マートンのアノミー ・デュルケイムのアノミー ・共有地の悲劇 ・囚人のジレンマ ・フリーライダー ・インセンティブ			
8	【授業単元】 偏見と差別そして共生社会 【到達目標】 ・内集団と外集団 ・ゴッマンのスティグマ ・権威主義的パーソナリティ ・ロバート・パットナムの社会関係資本								
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんなメモを取っていくことです。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別授業(国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	遠藤 龍		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉士国家試験に向けて既習内容を確認するとともに、個人の特性や現時点の理解度をふまえ、それぞれに最適化された学習を行うためプロセスを理解し実行出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
慢性期医療機関の医療ソーシャルワーカーの実務経験がある教員が、社会福祉士国家試験の全科目について、模擬問題の出題、解説をします。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各授業で配布する模擬問題等を使用します					授業で取り組んだ、模擬問題の結果を活用して、水らの科目内容の定着学習、国家試験対策学習に応用してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 各個人の目標設定				9	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 授業の進行内容を把握すること。 学生自身が現状把握できること。					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
2	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				10	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
3	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				11	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
4	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				12	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
5	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				13	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
6	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				14	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
7	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				15	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
8	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
個々でも、授業の中で出題される模擬問題の結果や解説を開示して、社会福祉士国家試験科目の苦手科目の改善のための自主学習に取り組んでください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別授業(国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	遠藤 龍		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて既習内容を確認するとともに、個人の特性や現時点の理解度をふまえ、それぞれに最適化された学習を行うためプロセスを理解し実行出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 慢性期医療機関の医療ソーシャルワーカーの実務経験がある教員が、社会福祉士国家試験の全科目について、模擬問題の出題、解説をします。									
【使用教科書・教材・参考図書】 各授業で配布する模擬問題等を使用します					【授業時間外における学習】 授業で取り組んだ、模擬問題の結果を活用して、水らの科目内容の定着学習、国家試験対策学習に応用してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 各個人の目標設定				9	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 授業の進行内容を把握すること。 学生自身が現状把握できること。					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
2	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				10	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
3	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				11	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
4	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				12	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
5	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				13	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
6	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				14	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
7	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				15	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題			
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること					【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること			
8	【授業単元】 国家試験の模擬問題の出題				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 社会福祉士の国家試験の実践的な問題対応力と解法プロセスの効率化力を養えること								
【履修に当たっての心構え・留意点】 個々でも、授業の中で出題される模擬問題の結果や解説を開説して、社会福祉士国家試験科目の苦手科目の改善のための自主学習に取り組んでください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別授業(国家試験対策)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	各務 勝博		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 地域福祉および障害福祉に関する制度・理論を理解し、説明できる。 2. 事例問題において支援過程を踏まえて適切に判断できる。 3. 国家試験の選択肢を論理的に検討し、正誤を判断できる。 4. 国家試験レベルの問題において安定して合格基準点を取ることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を所持。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の経験を持つ。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。 本科目では、地域福祉および障害福祉分野について、制度・理論の整理と事例演習を通して理解を深める。地域共生社会、包括的支援体制、生活困窮者支援、障害者総合支援法、相談支援、就労支援等の内容を扱う。あわせて、事例問題および国家試験形式の問題演習を通して、支援過程に基づく判断力と選択肢の読解力を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 地域福祉と包括的支援体制・障害者福祉／中央法規出版					過去問題・模擬問題の学習を積極的に行った上で授業に臨んでほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 域福祉の基礎と理念				17・18	【授業単元】 障害福祉の基礎理解			
	【到達目標】 地域福祉の定義および地域共生社会の理念を理解し、国家試験における基本的な論点を説明できる。					【到達目標】 障害の概念および障害福祉制度の全体像を理解し、説明できる。			
3・4	【授業単元】 包括的支援体制の理解				19・20	【授業単元】 障害者総合支援法と相談支援			
	【到達目標】 包括的支援体制および重層的支援体制整備事業の仕組みを理解し、地域包括支援センターの役割を説明できる。					【到達目標】 障害者総合支援法の仕組みと相談支援の役割を理解し、支援の流れを説明できる。			
5・6	【授業単元】 生活困窮者支援と地域福祉計画				21・22	【授業単元】 障害児支援と就労支援			
	【到達目標】 生活困窮者自立支援制度の内容及支援の流れを理解し、地域福祉計画との関係を説明できる。					【到達目標】 障害児支援および就労支援の制度と特徴を理解し、それぞれの違いを説明できる。			
7・8	【授業単元】 地域資源と担い手				23・24	【授業単元】 精神・発達障害支援			
	【到達目標】 社会福祉協議会および民生委員・児童委員の役割を理解し、地域における支援体制を説明できる。					【到達目標】 精神障害および発達障害の特性を理解し、適切な支援方法を説明できる。			
9・10	【授業単元】 地域アセスメントと連携				25・26	【授業単元】 権利擁護とアセスメント			
	【到達目標】 地域アセスメントの視点と多機関連携の意義を理解し、支援に活用できる。					【到達目標】 障害分野における権利擁護の制度とICFの視点を理解し、支援に活用できる。			
11・12	【授業単元】 権利擁護と地域福祉の主体				27・28	【授業単元】 ケアマネジメントと地域生活支援			
	【到達目標】 成年後見制度等の権利擁護の仕組みを理解し、地域住民主体の支援の意義を説明できる。					【到達目標】 ケアマネジメントの過程と地域生活支援の仕組みを理解し、説明できる。			
13・14	【授業単元】 地域福祉の事例理解				29・30	【授業単元】 障害福祉の総合的理解			
	【到達目標】 複合課題事例をもとに、包括的支援の視点から支援過程を整理し説明できる。					【到達目標】 障害福祉分野の知識を統合し、事例問題および国家試験形式問題に対応できる。			
15・16	【授業単元】 地域福祉の総合的理解				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 地域福祉分野の知識を統合し、国家試験形式の問題において適切に判断できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本授業は国家試験対策であると同時に、実践的な支援力を養うことを目的とする。知識の暗記にとどまらず、「なぜその選択肢が正しいのか／誤りなのか」を常に考えながら学習すること。授業内の事例演習や問題演習には主体的に取り組み、自らの理解を言語化・整理する姿勢を重視する。また、復習を前提とした継続的な学習を行うこと。									

授業概要

科目名	xTechのケースワーク2	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
xTechによる課題解決の実践的なアプローチを学び、具体的なプロジェクト計画の立案と実行に必要なスキルを習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
IT企業での開発経験とスタートアップでのプロダクトマネージャーとしての経験を持ち、現在はデジタルトランスフォーメーションコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。実際のプロジェクト事例を基にしたケーススタディやプロトタイピングを通じて、実践的な学習を行う。また、現役のxTech企業の実務者をゲストスピーカーとして招き、最新の業界動向や実践知識を学ぶ機会を提供する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
デジタルトランスフォーメーション白書 xTechイノベーション事例集 各種オンライン学習プラットフォーム					最新のテクノロジートレンドやイノベーション事例のリサーチを行い、自身の関心領域におけるxTechの可能性を探求すること。また、授業で取り込むプロジェクトの準備や振り返りを行うこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				9	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
2	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				10	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
3	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				11	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
4	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				12	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
5	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				13	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
6	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				14	【授業単元】 プロジェクト進行管理・課題解決の実施・成果の評価・改善提案の検討・改善提案の実行			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 プロジェクトの進行を効果的に管理し、課題を実践的に解決し、成果を客観的に評価する。その後、改善提案を検討し、実行する。			
7	【授業単元】 xTech企業からのヒヤリング・課題設定・チームビルディング・提案書作成・実施計画の策定・プロジェクト進行管理・課題解決の実施				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 xTech企業からのヒヤリングを通じて課題を特定し、チームを構築し、提案書を作成する。その後、実施計画を策定し、プロジェクトの進行を管理し、課題を解決する。					【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、xTech企業や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。改善提案を実行した結果を報告し、評価する。(前期定期報告)			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、xTech企業や業界の課題を検討・設定する。設定した課題に対しての解決策を見だし、試作品やサービス改善案を提案する。(前期中間報告)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
アクティブラーニングを重視し、プロジェクトベースの学習を中心に進める。積極的な意見交換と協働を通じて、実践的なスキルと知識の習得を目指す。xTechのケースワークの内容を踏まえ、より実践的な応用力を養うことを目標とする。									

授 業 概 要

科目名	応用情報技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
高度IT人材として必要な応用的知識・技能を身につけ、システム開発からプロジェクトマネジメントまでの実践的な能力を養成する。 ① 組織の経営戦略に基づき、業務上の課題に対してITを活用した解決策を企画・立案し、システムの要件定義を主導的に行う。 ② システムアーキテクチャの設計、プロジェクト管理、品質管理などの技術的な観点から、システム開発全体を統括する。 ③ 情報セキュリティ対策の立案・実装を行い、システムの安全性と信頼性を確保する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高度なIT技術者として必要な知識・技能を習得する。システムアーキテクチャ、データベース、ネットワーク、セキュリティ、プロジェクトマネジメントなどの応用的な内容を学ぶ。また、実践的な課題解決能力を養うため、システム開発プロジェクトを実施し、要件定義から設計、実装、テストまでの一連のプロセスを体験する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。システム開発実践ガイドなどを適宜使用する。					企業との産学連携プロジェクトに参加し、実際のビジネス課題に対するソリューション開発を行う。また、高度な技術力を競うプログラミングコンテストやハッカソンへの参加を推奨する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 情報システム戦略				9	【授業単元】 データベース			
	【到達目標】 情報システム戦略の立案・策定プロセス、経営戦略の基礎について理解する。					【到達目標】 データベース設計、SQL、トランザクション管理について理解する。			
2	【授業単元】 システム企画				10	【授業単元】 セキュリティ			
	【到達目標】 システム化計画、要件定義、調達計画について理解する。					【到達目標】 情報セキュリティ管理、暗号化技術、認証技術について理解する。			
3	【授業単元】 システム開発技術				11	【授業単元】 法務			
	【到達目標】 システム開発手法、開発プロセス、テスト技法について理解する。					【到達目標】 知的財産権、セキュリティ関連法規、労働関連法規について理解する。			
4	【授業単元】 プロジェクトマネジメント				12	【授業単元】 システム監査			
	【到達目標】 プロジェクト計画、スケジュール管理、品質管理について理解する。					【到達目標】 システム監査の目的、手法、報告について理解する。			
5	【授業単元】 サービスマネジメント				13	【授業単元】 新技術動向			
	【到達目標】 サービスレベル管理、システム運用管理、障害管理について理解する。					【到達目標】 AI、IoT、ビッグデータ、量子コンピュータなどの最新技術動向について理解する。			
6	【授業単元】 システムアーキテクチャ				14	【授業単元】 事例研究			
	【到達目標】 システムアーキテクチャ設計、性能設計、可用性設計について理解する。					【到達目標】 実際のシステム開発・運用事例を通じて、応用情報技術の実践的な活用方法を理解する。			
7	【授業単元】 ネットワーク				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)			
	【到達目標】 ネットワーク方式、通信プロトコル、ネットワーク管理について理解する。					【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、情報システムの設計・管理に関する総合的な理解を確認する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
企業や組織におけるIT活用の課題に対し、応用情報技術を用いて解決策を探索することを期待します。新しい技術動向に関心を持ち、探求の過程で技術を活用した革新的なソリューションの提案・実装に挑戦してください。									

講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。
各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formsによる試験)を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。
小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。

授業概要

科目名	応用情報技術	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	7 単位	総時間数	210 時間
【授業を通じての到達目標】									
高度IT人材として必要な応用的知識・技能を身につけ、システム開発からプロジェクトマネジメントまでの実践的な能力を養成する。 ① 組織の経営戦略に基づき、業務上の課題に対してITを活用した解決策を企画・立案し、システムの要件定義を主導的に行う。 ② システムアーキテクチャの設計、プロジェクト管理、品質管理などの技術的な観点から、システム開発全体を統括する。 ③ 情報セキュリティ対策の立案・実装を行い、システムの安全性と信頼性を確保する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高度なIT技術者として必要な知識・技能を習得する。システムアーキテクチャ、データベース、ネットワーク、セキュリティ、プロジェクトマネジメントなどの応用的な内容を学ぶ。また、実践的な課題解決能力を養うため、システム開発プロジェクトを実施し、要件定義から設計、実装、テストまでの一連のプロセスを体験する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『情報処理技術者試験 試験要綱・シラバス(Ver.5.3、2024年10月の試験から適用)』を参考にする。システム開発実践ガイドなどを適宜使用する。					企業との産学連携プロジェクトに参加し、実際のビジネス課題に対するソリューション開発を行う。また、高度な技術力を競うプログラミングコンテストやハッカソンへの参加を推奨する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 情報システム戦略	【到達目標】 情報システム戦略の立案・策定プロセス、経営戦略の基礎について理解する。			9	【授業単元】 データベース	【到達目標】 データベース設計、SQL、トランザクション管理について理解する。		
2	【授業単元】 システム企画	【到達目標】 システム化計画、要件定義、調達計画について理解する。			10	【授業単元】 セキュリティ	【到達目標】 情報セキュリティ管理、暗号化技術、認証技術について理解する。		
3	【授業単元】 システム開発技術	【到達目標】 システム開発手法、開発プロセス、テスト技法について理解する。			11	【授業単元】 法務	【到達目標】 知的財産権、セキュリティ関連法規、労働関連法規について理解する。		
4	【授業単元】 プロジェクトマネジメント	【到達目標】 プロジェクト計画、スケジュール管理、品質管理について理解する。			12	【授業単元】 システム監査	【到達目標】 システム監査の目的、手法、報告について理解する。		
5	【授業単元】 サービスマネジメント	【到達目標】 サービスレベル管理、システム運用管理、障害管理について理解する。			13	【授業単元】 新技術動向	【到達目標】 AI、IoT、ビッグデータ、量子コンピュータなどの最新技術動向について理解する。		
6	【授業単元】 システムアーキテクチャ	【到達目標】 システムアーキテクチャ設計、性能設計、可用性設計について理解する。			14	【授業単元】 事例研究	【到達目標】 実際のシステム開発・運用事例を通じて、応用情報技術の実践的な活用方法を理解する。		
7	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 ネットワーク方式、通信プロトコル、ネットワーク管理について理解する。			15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)	【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている。		
8	【授業単元】 中テスト	【到達目標】 これまで学んだ知識・技術を活かし、情報システムの設計・管理に関する総合的な理解を確認する。			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点として、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で段階(A～F)で評価する。 各テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Forms)による試験を基本とするが、該当授業単元の成果物制作・発表・実技試験をもって相当の評価をすることがある。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 企業や組織におけるIT活用の課題に対し、応用情報技術を用いて解決策を探索することを期待します。新しい技術動向に関心を持ち、探求の過程で技術を活用した革新的なソリューションの提案・実装に挑戦してください。									